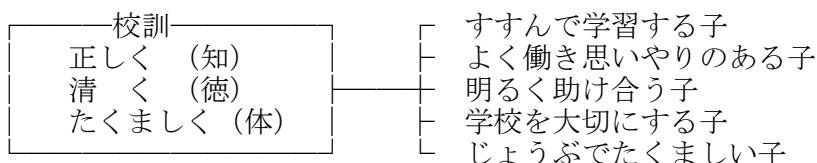


令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

岩成台西小学校

1. 本校の教育目標

「生きる力」を育成することを学校教育の基本とし、「知・徳・体」の調和がとれた、人間性豊かで、心身ともに健全な児童の育成をめざす。



2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において「書道科」を設ける。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して書道科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して書道科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

(4) 地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を生かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品を作り上げようとする向上心、作り上げ

た達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「書道」を通して、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返ること、さらに小学校3年生以上の児童全員に配布している「書のまち春日井」や「小野道風」を紹介するパンフレットは学校教育法にもある「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養う」ことにつながっていくと考える。また、地域に住む書道に堪能な方を書道科補助員（書道科講師）として雇用し書道の技術面をサポートしたり、県下児童・生徒席上揮毫大会に参加をしたり等、これらの取組は「生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと」につながっていくものと考えられる。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	・水習字で楽しく学ぶことができた。 ・書の講師の先生に、分かりやすく教えてもらったので、字がうまく書けるようになった。 ・初めて、「大きな筆で大きな字」を書いたので楽しかったです。大きな筆で書くことは難しかったけど、紙におもいっきり書いてよかった。
教 員	・1年生から筆に慣れ親しむことは、よいことだと思う。 ・専門的な指導をしていただけるので、ありがたいです。 ・5年生は大きな紙、6年生は屏風に文字を書く活動を取り入れ、子どもたちにとって、貴重な経験となっている。
保護者	・1年生から筆を使った指導をしてくれるので、早くから書の基礎基本が学べてよい。 ・字の上達が目に見えて分かるので、よい機会だと思う。 ・習いごとに行かせてはいないが、専門的に教えていただける機会があって、ありがたいです。

(3) 学校関係者評価

・「書のまち春日井」として、市として席上揮毫大会を行っていることはよいことだと思う。本校でも書の時間に書道に取り組むことは、子どもたちにとってよい経験となっている。
--